

# 自然再生事業における課題と提案

生物多様性研究分科会 河合和義

## 1. はじめに

島根県では、県内の自然公園区域以外で学術的価値の高い優れた自然を存する 6 地域を「島根県自然環境保全条例」に基づき、自然環境保全地域に指定しています。

今回、生物多様性研究分科会では自然環境保全地域に指定されている、飯南町の「赤名湿地性植物群落」の現地視察を行い、地元を中心とした保全活動による自然景観の再生状況を確認するとともに、研究分科会として地域活性化への提案が可能かどうか検討を行いました。

また、大規模干拓により自然改変後の中海の自然回復を行っている NPO 法人自然再生センターの徳岡理事長を講師に招き、中海における自然再生事業の取り組みを聴講し自然再生事業への理解を深めております。

## 2. 赤名湿地性植物群落

島根県飯南町の赤名湿地性植物群落は、乾燥が進み植生が改変されつつあるため湿地性植物の保護と植生の回復を図るため、平成 14～16 年度に自然再生事業を実施しています。

生物多様性研究分科会は、平成 25 年 10 月 14 日(月・祝)に「赤名湿地性植物群落」と「福田山野草の森」の現地視察を行い自然再生状況を確認しています。

赤名湿地性植物群落は、県下最大のハンノキ林とその林下に生育する貴重な湿性植物に特徴づけられています。また、氷河期から気候に適応し残存したとされる「ミツガシワ」が自生しており、さらに、日本一小さく“幻のトンボ”と呼ばれる「ハッチョウトンボ」の姿も観察することができます。



写真 2.1 赤名湿地植物群落図

種別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
ミツガシワ	■						
リュウキンカ	■						
トキノウ			■	■			
ミズチドリ			■	■			
カキラン			■	■			
ノハナシヨウブ			■	■			
ヒツジグサ			■	■	■	■	
ハンカイソウ			■	■			
モウセンゴケ			■	■	■		
コオニユリ				■	■		
サギソウ				■	■		
サワギキョウ					■	■	
ハッチョウトンボ				■	■		

■ 開花期

写真 2.2 赤名湿地の見頃



写真 2.3 ハンノキ林



写真 2.4 長尾池



写真 2.5 ミツガシワ（4～5月）



写真 2.6 ハッチョウトンボ（7～8月）

赤名湿地に隣接する「福田山野草の森」は、モリアオガエルが多数生息する2つの溜池を中心に遊歩道を設置し、植物に名札を付け生きた植物図鑑園として整備しています。



写真 2.7 山野草の森案内図



写真 2.8 モリアオガエルの棲む池



写真 2.9 山中の状況



写真 2.10 モリアオガエルの卵

赤名湿地保全事業は、長尾池の水位が減少し土壌が乾燥することにより湿地性の動植物が失われ自然環境が喪失してしまう恐れがあることから、長尾池の水位を維持する工事が平成 14～16 年度に行われ、事業実施後も湿地の環境を維持するため、年 1 回、地元育成会との連携によりボランティアを募り、ヨシやノイバラなどの刈り取り作業を実施しています。



写真 2.11 平成 25 年度刈り取り作業 出典：島根県 HP

今後、地元育成会のメンバーの高齢化が進むことが考えられ、湿地の環境を維持する活動に支障が生じる恐れがあり、冬期は雪に埋もれる赤名地方において 1 年間を通した収入源確保が重要な課題と考えています。

### 3 . 中海自然再生事業

2002 年に中止が決まった中海干拓淡水化事業により、中海の浅場減少と水質悪化による漁獲量の減少が発生しています。

平成 19 年 6 月に「中海自然再生協議会」が設立され、中海で活動する 3 つの NPO が主体となり、海草藻類の保全・再生事業、海藻類の回収及び利用事業、砂浜の保全・再生事業、浚渫窪地の環境修復事業、の 4 つの実施計画を進めているところです。また、国土交通省が進めている浅場の造成事業や湖底の窪地修復を行う覆砂事業とも協働し、中海再生を一層進めることが可能な状況となっています。



写真 3.1 覆砂事業



写真 3.2 浅場造成事業

今後は、再生された自然環境の状況をモニタリングするとともに、その状態を長期間にわたり維持する「自然再生の継続」が重要な課題と考えています。

#### 4．おわりに

##### 4．1 赤名湿地性植物群落について

飯南町では「森の案内人」が有料で赤名湿地性植物群落の案内を行い、ガイド料として半日 3,000 円、一日 5,000 円と設定しています。また、「福田山野草の森」は入山する際、協賛金（200 円/人）を入れる箱を入口に設置しています。

これらの収入が「赤名湿地性植物群落」と「福田山野草の森」の貴重な収入源となっています。また、島根県の維持管理費も補われていますが、自然環境保全地域 6 地域に対する維持管理費が計上されているため、赤名湿地に係る予算額は不明です。

私は、生物多様性研究分科会の一員として飯南町周辺に 2 年間接してきました。該当地域は過疎高齢化が進んでいるため、地元育成会のメンバー確保や維持管理費を捻出するための提案が重要であり、生物多様性の観点から飯南町だけにとどまらず雲南市も含めた貴重種等を抽出し、食文化も含めた観光スポットの整備を行うことで他県からも観光客の増加が見込め収入源確保に繋がると考えています。

##### 4．2 中海自然再生事業について

中海の自然再生は、工事等を行うことだけを前提とせず自然の治癒力・復元力に委ねる方法も考慮し再生された自然環境が自律的に存続できるように、自然環境の改善や生態系の回復を科学的知見に基づいて検証を行うことが重要であり、事業実施後の維持管理にあたる自然再生のモニタリング及び化学的評価を自然再生手法として構築することで、中海の自然再生が継続できると考えています。